

蔵王山安善寺

◆編集・発行人◆

近藤龍弘

〒940-0052

長岡市神田町1丁目4番地10

TEL.(0258) 32-2811

◆スタッフ◆

安藤一夫

小林国二 小林善秋 高橋潔

佐藤正樹 近藤マリ子 近藤善信



安善寺 観音様(本堂に安置されています)

観音さまは菩薩グループに属しますが、菩薩とは梵語の bodhi-sattva(ボデー・サットヴァ)を音写したもので、菩提薩多ともいわれ、さとりを求める者という意味です。もともとは仏陀の前生の呼称であったのですが、転じて「さとりを求めて自ら修行し、一切の衆生をして、さとりに安立せしめんとする自覚修行者」の意であるといえます。



安善寺 三十三観音

菩薩行の観音さま

翠巖龍弘

天文十二年に安善寺が曹洞宗として開創された当時の本尊様ではなかったかと思われませんが、上の写真の聖観音菩薩です。天文時代(一五三二〜五五)ころの作と推定される菩薩坐像です。仏教には色々な仏像がありますが、如来・菩薩・明王・天、などに分けることができます。

『菩薩行』、如来の候補者である菩薩が上に向かって菩提(さとり)を求め「上求菩提」、下に向かつては衆生を教化し、人々を苦しみや悲しみから救い、願いをかなえる努力をする「下化衆生」という誓いを立てておられる仏さまだからではないでしょうか。

観音さまには「観世音菩薩」(人々の音声を観る菩薩。人々の苦しみの声を観て、すぐに救いおこなう)と「観自在菩薩」(自由自在に世間を観察する。常に平静に自由自在にものごとを観ておられる)という二つの名前があり、また、「施無畏者」(おそれなきことを施す者、すべての人を恐怖から救いだしてくださる)ともいわれております。

大乘菩薩の中で智慧の文殊、願行の普賢とともに慈悲の観世音は、もともとも名高く、印度・中国・日本を通じて広く信仰され、衆生救済のため、種々に身を変じ、観音経では三十三身に化身して一切衆生を救済すると説かれており、救済の願いのお姿として、聖観音・千手千眼観音・十一面観音・如意輪観音・准胝観音・馬頭観音・不空罽索観音(七観音)のほか、「法華経」普門品に説く教えにもとづいて、三十三観音がおいでになります。

私たちも観音さまのように、慈悲心をもって「菩薩行」に精進していきたいものです。

智慧がなければ、心は静まらない。心が静まらなければ、真の智慧は起こらない。

仏さまの「願い」にすべてを

田宮 仁

「ビハール」は古いインドの言葉で「休養の場」。満たされた時間が静かに流れます

私は、当代ご住職の近藤龍弘師と長岡高校の時の同級生であった縁もあって、龍弘師に「ビハール」の設立

と、その後の活動を多大に支えていただいている者です。

この度、皆様に「ビハール」のことをお伝えするチャンスをいただきましたことを、ありがたく感謝いたします。

「ビハール」を一言でいうと、仏教版のホスピスのことです。「ビハール」という言葉は、古いインドの言葉であるサンスクリット語で「休養の場・院」という意味を持っていきます。

末期の癌の患者さんなどが、可能な限り、痛みや悩みを取り除き、その人が残された日々を大切にされ、その人らしい充実した時間を過ごしてくださるよう、医療と仏教が協力して用意させていた場です。

このような施設は、現在、

全国に四十個所ほどあり、一般的には「緩和ケア病棟」と呼んでいます。

キリスト教系の病院では「ホスピス」と呼ばれ、仏教を背景としたものを「ビハール」と呼び、長岡市の長岡西

りません。自然で当たり前のことですが、それが自身自身や家族の身に訪れるときは、なかなか平静でいられないのが実際であります。私たちが生まれるときは、多くの喜びと「願い」がかけ



長岡西病院 仏像の「釈迦菩薩像」

病院に日本で最初に、平成四年に開設いたしました。

生まれたからには、何時の日にかこの世を去らねばな

を、自身も家族も願っていないことではないでしょうか。

病んだとき、老いたとき、私たちの「願い」は最も切実なものとなります。その「願い」はこの世を去らねばならぬとき、頂点に達します。そして、自分自身が願う「願い」

から、仏様の「願い」にすべてを託し、お任せすることにかかわると存じます。

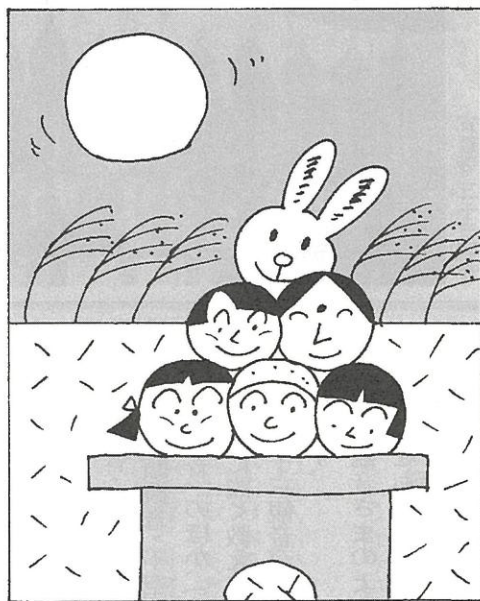
私たちの多くは、病んだときにはお医者さんに期待します。しかし「いのち」のトコトンのところでは、仏様ではないでしょうか。

「ビハール」は、お医者さんや看護婦さんなどの医療者と、龍弘師をはじめとする多くの仏教者やボランティアの方々協力して、病める人に少しでもお役に立ちたいと願っています。

皆様の一層のご理解を賜りますよう、お願い申し上げます。 合掌

九月～十二月の行事案内

みなさま、おそろいで気軽にご参加ください。



■九月二十三日(日) 中日 法話 安善寺住職

■九月二十六日(日) 彼岸明 法話 大日寺 佐藤正樹師

■接心会

十二月三日(木)～七日(月) 午後六時～八時 坐禅
十二月九日(水) 午後五時半～六時半 坐禅

■成道会

十二月八日(火) 午前十一時より 読経・法話・お齋 法話 安善寺住職

■山内大掃除

十二月二十日(日) 午前九時より 安善寺本堂

■彼岸会

法要 各日とも午後一時～

■九月二十日(日) 彼岸入 法話 大日寺 佐藤正樹師

■安善寺稻荷吒枳尼尊天大祭/九月十八日(金) 午前十二時より 読経・法話 稲荷堂

稲荷堂

安善寺に お世話になって 三百五拾年

永井安宅

私事で大変致縮ですが、残された記録を頼りに、祖先がいつ頃から安善寺にお世話になってきたか、その足跡をたどってみました。

長岡藩の御記録所由緒記控の私どもの初代の項の書出に「一、寛永十七庚辰先祖仙助依勤功由緒有之二付被召出」とありますので、寛永十七年（一六四〇）に初代は元服して間もない十四・五才の頃に長岡藩に職を得て、

長岡の地に定住したものと思われます。余談ですが、寛永十七年というと、初代長岡藩主牧野忠成公が長岡に入府してまだ十年あまりで、長岡藩の態勢作りが急がれていた頃です。

ちなみに入府当時の長岡藩の藩士は二百二十三家ほどでしたが、幕末には六百家近くに増加しています。

さて私どもの過去帳の一番古い記載を見ますと、「禪室寮安禅定尼 寛文四甲辰

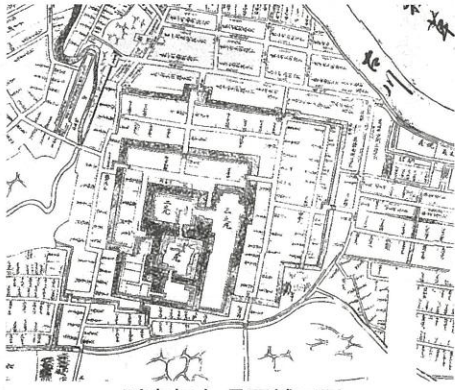
（一六六四）とありますので、恐らく初代の祖母に当たる人が初めて安善寺に埋葬されたものと考えられます。

戒名から察するに、曹洞宗の信仰が厚かったのではと思われ、生前から安善寺を訪ねていたのではと想像されます。

初代は延宝六年（一六七八）より、八年間江戸詰め（転

なっています。恐らく初代の祖母に当たる人が初めて安善寺に埋葬されたものと考えられます。戒名から察するに、曹洞宗の信仰が厚かったのではと思われ、生前から安善寺を訪ねていたのではと想像されます。

最後の長岡にとつてのエポックは戊辰戦争です。長岡城の二回にわたる攻



延宝年中 長岡城下図

勤)の後、貞享三年（一六八

六)長岡に帰り、二之御丸掃除奉行などを勤めて、元禄十二年（一六九九）に亡く

戦が繰り広げられます。

曾祖父自身の記録は「同年五月廿六日栃尾人面村二於テ負傷」という記述で終わっています。「長岡藩戦争の記録」には重傷と記録されていますので、恐らくこの時点で戦列を離れざるを得なかったと思われ。その後、曾祖父は明治の時代を生き、同三九年に亡くなっています。

明治六年に安善寺が再建された頃、曾祖父は長岡の坂之上町に住んでいました。同じ年に長男(私の祖父)が誕生しています。長岡に平和がもどり、菩提寺の再建に曾祖父達はどの様にかかわったのでしょうか? いづれにしましても、安善寺が四百五十年の永きにわたり守られてきた事は、其々の時代を生き、歴代御任職の並々ならぬ御尽力のたまものであり、檀徒の一人として感謝の念を益々深くするものであります。

長岡藩の西軍との戦闘が開始され、五月十九日、長岡城落城の後、同盟軍(奥羽越前藩)の主力は栃尾に退き、激

安善寺の精進料理

さっと茹でて熱いうちに酢をかけ、ピンク色になったら黒ごまで味を整える

湯でさっと茹で、ザルにあけてから器に移し、熱いうちに酢をかけ少し蓋をしておく。鮮やかな紫がかつたピンク色になってから約三センチの長さに切り、絞っておく。



正直なもので、九月の声を聞いた途端、吹く風も周りの情景も秋を感じさせるものばかり。「人の気持ちがそうさせるのかな」と、ふっとそんな事を考えました。

今回は、店先に真っ直ぐ伸びて並んでいる「ズイキ」を料理してみました。

よく炒った黒ごまを摺鉢でよく摺り、砂糖、醤油を加え、味を整える。絞っておいいたズイキを混ぜ和える。衣の胡麻は味を整えてから一度さつと火を通すと一段と風味が増します。

お別れ

(平成十年七月〜八月末)

金泉栄勢様 七月八日寂

新潟市掘割町

佐藤廣子様 八月十六日寂
長岡市表町

佐藤宏之様 八月十九日寂
長岡市笹崎

ご冥福をお祈り申し上げます。

鉄の錆は、鉄から生じて鉄を喰う。

自分のことは取りあえず棚に上げて、「欲望」について考えてみたいと思います。棚にあげて、といますのは、ほとけさまの教えに「不妄語戒」——うそをつくな——という戒めがありますからね。そんなに偉そうにいうなら、あんたはどこの、といわれたらグーの音もでません。そこで、取りあえず私のことは棚に上げてください。ほとけさまは人の欲望は



その中で教えているのが「小欲知足(しょうよくちそく)」、欲望を少なくし、足るを知る心をもて、ということ。考えてみれば、けちん坊が高じれば「この我利我利亡者!」なんていわれますしね。威張って鼻高々になれば、周りからそっぽを向かれます。このごろ、うんこ座りでは一っとして無気力な青年が問題になっています

のは、禅門の修行者にいわせれば「凡愚(ほんぐ)の輩」と、鼻ではしかれることでしょう。健康的な性欲であってこそ「足るを知る心」なのです。早起きは三文の得、っていいですけど、毎朝早く起きると健康にもいいし、何かしら得なことがあるのはわかってはいるけど、今日も寝過(ねと)してしまっただ、と反省します。でも、そーか、わかった、は、では今日から小欲知足に

なります。ところがそうは問屋が卸しません。わかっちゃいるけど、実践できません。そこで、請け売りの話です。れど、実践しようと思うことを、声を大にして周りの人に絶えず言うのです。これは確かにじんわり利いてきます。けちん坊は金は冥土の土産になりません、金は天下の回りものです」と、毎日まくしたてましょう。

大きな声で言う。肥り過ぎは「食べ過ぎは体に悪いよ、健康によくないし、肥満はみつともないよ」といいながら、いっぱい食べる。寝過ぎる人は「三十分早起きすると人生が変わるよ」と寝坊しても、めげずに言いつけてみましょう。すると、周りから「何だ! 人にいうけど、口ばっかりで…」と必ず文句がでます。「そうです、そうしようと思うのだけど、なかなかできなくて…。でも悪いことは悪いのです。直さないといけません」。口が裂けても言い訳しないで認めてください。同じことを口癖のように言い続けていると、いつかその通りになってきます。ことばは不思議なものです。言い続けていると自分を動かすパワーになるのですから。

欲望という難問題

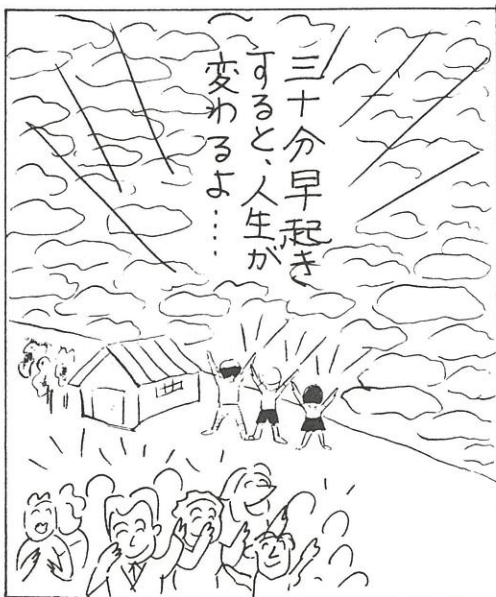
「小欲知足」。欲望を少なくし、足ることを知る心を

安藤 一夫

五つある、と教えています。一つに財産欲、二に名誉欲、三つに色欲、四に食欲、五に睡眠欲。五つの欲望です。財産欲、名誉欲は、人間だけがもっている欲望。食欲、睡眠欲は、この世の動物たちぜんぶが本能でもっている欲望です。本能と欲望のおもむくまま、生きていけたらどんなにかいいだろうなあ、ストレスなんかは絶対に溜まらない

だろうなあ、とも思います。欲望は私たちが生きていくための活力であり、パワーでもありますからね。おしゃかさまが亡くなる前に、次の八項目を守りなさいよ、と「八大人覺(はちだんにんかく)はちだいにんがく」というお経で遺言を残されたそうです。道元禅師(だうげんぜんじ)さまも、亡くなる前に、「正法眼蔵(しょうぼうげんざう)第九十五卷に、この「八大人覺」を解説しています。

ど、こういうのは単なる欲望喪失で小欲知足ではありません。満ち足りた生活のなかで育った結果の無気力です。美味しいものを食べすぎて気がついたら糖尿病であちらがダメ。こういうのを色欲超越とは申しません。もつとも、家庭内糖尿病というやつかいなものもありますけど。よーし、バイアグラでがんばってみようとか、いやーすごかったぞ、とか騒いでいる



自分のことばかり言っている人は「心と気持ちで関わって、心と気持ちで行動です」これを、年中まくしたてる。すねに傷もつ人は「こうやっていられるのもかあちゃんのお陰だよ」と周りに毎日

い続けていると、いつかその通りになってきます。ことばは不思議なものです。言い続けていると自分を動かすパワーになるのですから。おしゃかさまは「小欲はよく諸々の功德を生む」と教えています。毎日を小欲知足の心がけて過(と)すと、すてきな人生がおくれますよ、ということなのです。え? はい、わたしはちつとも実践できていませんけど。

皮細工

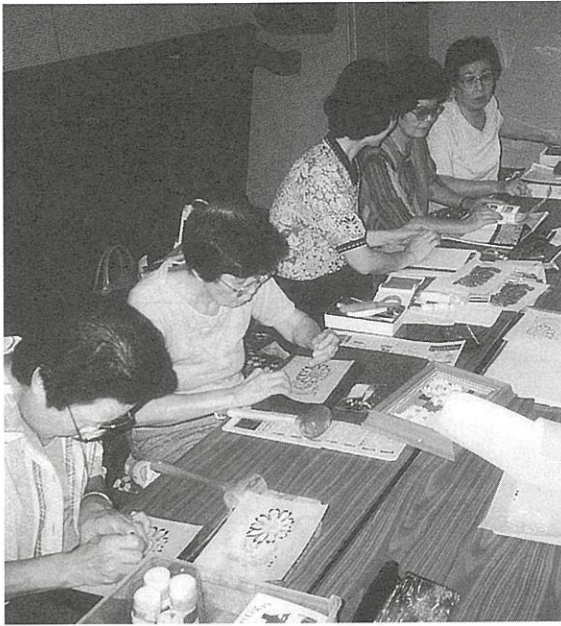
世界にひとつしかない私の作品

新保富恵

皮の小道具に興味のある方、皆さんの作品を見に来てください

九月で革細工教室は、八年目を迎えます。もう七年もやっただけですネ!! よく続いたものと、内心思っております。支えてくださっている方丈様、奥様、教室の皆様

に深く感謝申し上げます。振り返ってみますと、「革をやってみたいのですが」というお話で「まあ、おいでになる方は年配の方でしょうから、小物位でいいかしら」と、安易に考えてお引き受けいたしました。ところが、皆様熱心で、器用な方ばかりで、未熟な私は不安と緊張の連続でした。今は、安くて質の良いステキな商品が沢山あります。革細工は、自分でデザインをし、型に作るという手のかかる物で、一生懸命、愛情を込めて作っております。また、その作品を長く使っていくこと



とも喜びの一つです。

作品はすべてスムーズに出来るわけがなく、四苦八苦しながら「まあいいわ」と妥協しながら、世界で一つしかない私の作品ということにこだわり、満足し、喜び、楽しんでいくかと思えます。作られる作品は、小銭入れなど、小物から、状差し、革絵といった造形。それも、ふき染め、型染めなどなど、手法、技法が類々で、常に学びながらです。

のんびり、ゆつくりと...、最近、皆様、オリジナル性が出てまいりまして、紺系の方、赤系、茶系と、それぞれ好みの物が出来上がり、お互いの作品を見るのも楽しみの一つです。

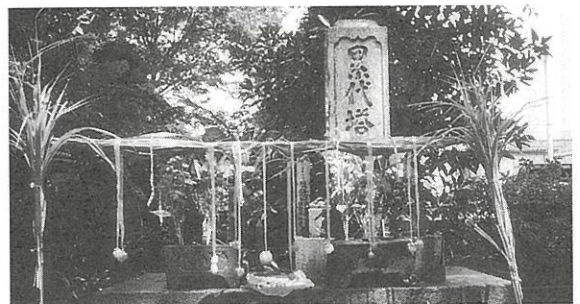
「手」って本当にすばらしいです。手を動かすこともとても良いことです。身近かな小物を作ってみよう、どうぞにぎやかな教室をのぞいて見てください。

今年のお盆は 家族そろってお墓参りができなかったけど

曾根 豊子

八月十三日のお墓参りに行けず、大変不調法なことをして申し訳ございません。

十六日朝、寄せてもらい、お供えを下げ、掃除をすることが出来て良かったと思います。私は六月から、セゾン駅ビル(名産越後という



お店)に勤めました。夏休み、花火大会、お盆と、忙しく、家族揃つての墓参りが出来ず「じいちゃん、ばあちゃんを迎えに行つて来

てね」と、主人と子供たちに頼みました。今年はずっと、梅雨の明けない長雨の中で、お墓が水浸しで大変だったそうです。

第二号で、イラスト入り「お盆の準備の記事があり、大変勉強になりました。

十六日の朝、あの世の土産に白玉だんごを作り、ナス、キュウリを細かく刻んで、お仏壇にお供えし、お茶をあげて仏様をお送りするのだと、生前おばあちゃんに教わったのですが、これで良いのでしょうか。

いろいろ分からないことが沢山あります。ぜひこれからも、紙面で教えていただきたいと思えます。

読者からのお便り紹介



新潟方面は大雨に見舞われているようですが、お変わりなくお過ごしでしょうか。七月中旬には、季刊紙第二号をお送りくださり、ありがとうございました。安善寺のご本尊様のこと、お経の中に出てくる言葉の意味などに、興味深く拝見いたしました。御地のこと、遠く離れて暮らしてありますが、季刊紙のお陰で、活気ある様子よくわかり、お寺がとても身近になりました。

私も八十才が近くなつて参りましたが、身体の方は今までより元気になったと、友人に言われております。お伺いする日を楽しみにしております。今年もよろしく願い申し上げます。

気候不順の折り、くれぐれもお大切に過ごしてくださいませ。

横浜市在住 M様

ネパールからの一通の手紙

小さなうすい手紙から学んだこと

小千谷中学校3年 菊田 麻美

て、とても感謝しています。来年一年間勉強すると、小学校の先生になれます」という内容でした。

祖母から詳しい内容を聞くと、祖母が世話人をしているお寺の人から、外国には勉強したくても貧しくて学校にも行けない子供たちがいるので、その子たちのために一万円の援助をしてほしいといわれ、快く応じたそうです。

私は、祖母の話と、この手紙を読んで感じたのは、まず、日本とネパールの物価の違いです。日本では一万円で何が買え、何ができるでしょう。ズックやゲームのカセット、ちよつとした外食などで、あつという間に消えてしまいます。

それがネパールでは、高校の一年間の授業料に相当するということを知り、すごく驚きました。そして、お金の大切さや物のありがたみにもっと目を向けなければいけない、と思いました。

次に感じたのは、この女子生徒のことです。顔写真も同封されていて、高校生とはいえず、私と同じ世代の子でとて

も親しみをもちました。でも、彼女は小学校の先生になりたいというしつかりした目標をもち、それに向かって一生懸命頑張っています。私は将来のことを考えたことはありますが、まだはっきり決まっています。彼

くさんいるんだらうなあ、ということ。学校にも行けないほど、お金がなくて困っている人が、地球にはどれくらいいるのでしょうか。そういう子どもたちは、私の何倍も努力をして生活しているのでは

ていて、平地がほとんどないということがわかりました。世界には、まだまだ遅れている国がたくさんあります。それに比べて日本はとても豊かな国です。しかし、きれいな自然がなくなった

の頃です。異常気象のせい、中国大陸の大洪水や日本各地での集中豪雨による大災害など、また、例年になく台風の発生も少なく、何か最近の経済状況とだぶって見えるのは私だけでしょうか。



ネパールの子供が書いたイラスト

う。私はそのよみな人たちのことも考えて生活しなければいけないなあと思います。

今回ネパールから届いた一通の手紙、小さなうすい手紙でしたが、その手紙から私はいろいろなことを考えさせられ、また、学ぶことができました。

そんな中「蔵王山・安善寺」の第三号の発刊が出来るのも皆様のおかげであり、安藤編集長には、第一号から第三号にいたるまで、物心両面に渡りご協力していただき、スタッフ一同本当に頭の下がる思いです。この紙面をお借りして心から感謝いたします。

女のように目標を決めて頑張ることはとても立派だと思います。そんな彼女に近づけたらいいなあと思います。

地図帳でネパールの位置を調べてみました。ネパールはアジアの中央に位置しており、首都はカトマンズです。世界一のエベレストをはじめ、高い山々がそびえ

祖母はこれからこの女子高生に返事の手紙を書くそうです。少し迷いましたが、私も彼女への励ましと、私のことも少し書いて一緒に送ってもらおうことにしました。

この季刊紙も今回で第三号ということで走り出したばかりです。少しでも多くの人に読んでもらえる手作りの季刊紙として、お寺のことや行事・仏事作法、教え、修業のことなど掲載します。皆様の寄稿、首を長くしてお待ちしております。

稿迎 投飲

皆さまの楽しいお話や身近なお話、ご質問・ご相談、ご意見をお寄せください。お手紙・ファックスのいずれでも結構です。お待ちいたしております。

〒94000052
長岡市東神田一四一十
安善寺 近藤 龍弘
FAX 0258-322870

第4号、新年号は平成十一年一月三日(日)発刊予定です。